

I. 導入

おはようございます。イエスが来られたのは、私たちに充実した人生を与えるためです。ヨハネ 10:10b-11 で、イエスはこう言われました。「**わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。10:11 わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。**」イエスは、私たちに豊かな命を与えるためにご自分が死んでくださることを前もって教えてくださいました。しかし、物やお金の豊かさを指してこう言われたのではありません。クリスチャンは健康で裕福であるべきだという教えもありますが、それは福音の曲解です。イエスがおっしゃった豊かな命は、この世の富にあふれる生活ではありません。むしろ、生きる意義や目的の見出せる人生、そして平安、喜び、希望のある人生のことです。



健康や豊かさを約束する福音は、イエスの教えた福音ではありません。イエスは、愛と恵みの福音を宣べ伝え、その応答としての従順と自己犠牲を教えられました。ルカ 9:23 を見てみましょう。「**それから、イエスは皆に言われた。『わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。』**」イエスが与えてくださる豊かな命は、従順と自己犠牲の人生です。それは、私たちに霊の実を結ばせ、天の報いをもたらします。ルカ 12:33 で、イエスはこうおっしゃいました。「**自分の持ち物を売り払って施しなさい。擦り切れることのない財布を作り、尽きることのない富を天に積みなさい。そこは、盗人も近寄らず、虫も食い荒らさない。**」天に積まれた富は、この世のどんな宝や勲章よりも頼りになります。



これらのことをしっかりと理解しておくのはとても大切です。人生の嵐に見舞われても、くじけたり悩んだりしないためです。物質的な祝福ばかりに目を向けていると、不幸なことが起こった時に動揺してしまいます。けれども、永続するものに目を向け、心を天に据えるなら、平安を得ます。マタイ 5:11-12 で、イエスは言われました。「**5:11 わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである。 5:12 喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。**」使徒言行録の学びを続けていくと、当時の弟子たちがこういったことをわきまえていたことがわかります。彼らは迫害や困難に遭っても喜びました。それは、復活と永遠の命に心の目が向けられていたからです。

今日の聖書箇所では、焦点がはっきりしていたおかげで、迫害の脅威が迫る中でも弟子たちがイエスの良き知らせを大胆に宣べ伝えられたことがわかります。先週に引き続き、ペトロとヨハネが取り調べを受けている場面です。ユダヤの長老たちは、神殿でペトロとヨハネを通して神が行われた奇跡的な癒しの業について尋問しています。それに対し、ふたりは長老たちにイエスを宣べ伝えました。使徒 4:12 でこう語っています。「**ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。**」これに対し、長老たちはどう応えるでしょう。では、使徒 4:13-22 をともに読みましょう。

II. 聖書朗読 使徒 4:13-22 (新共同訳)

4:13 議員や他の者たちは、ペトロとヨハネの大胆な態度を見、しかも二人が無学な普通の人であることを知って驚き、また、イエスと一緒にいた者であるということも分かった。

4:14 しかし、足をいやしていただいた人がそばに立っているのを見ては、ひと言も言い返せなかった。 4:15 そこで、二人に議場を去るように命じてから、相談して、 4:16 言った。「あの者たちをどうしたらよいだらう。彼らが行った目覚ましいしるしは、エルサレムに住むすべての人に知れ渡っており、それを否定することはできない。 4:17 しかし、このことがこれ以上民衆の間に広まらないように、今後あの名によってだれにも話すなど脅しておこう。」 4:18 そして、二人を呼び戻し、決してイエスの名によって話したり、教えたりしないようにと命令した。 4:19 しかし、ペトロとヨハネは答えた。「神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください。 4:20 わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです。」 4:21 議員や他の者たちは、二人を更に脅してから釈放した。皆の者がこの出来事について神を賛美していたので、民衆を恐れて、どう処罰してよいか分からなかったからである。 4:22 このしるしによっていやしていただいた人は、四十歳を過ぎていた。

III. 教え

70人の長老で構成される最高法院の最初の反応は、驚きでした。「こんな並の人間がこれほど大胆になれるとは」と思ったのです。次に、ふたりがイエスと一緒にいた者であることに注目しています。私たちはどうでしょう。福音を伝える勇氣があるでしょうか。大胆なクリスチャンへの第一歩は、イエスとともに過ごすことです。祈りの中でイエスと会話をしましょう。神のみことばを読んで、御声に耳を傾けましょう。イエスと時を過ごせば過ごすほど、心強く大胆になっていきます。

使徒 4:14 にはこうあります。「しかし、足をいやしていただいた人がそばに立っているのを見ては、ひと言も言い返せなかった。」足を癒された本人がその場にいたので、長老たちは奇跡そのものを否定することはできませんでした。この男性の存在自体が証拠となり、この奇跡について異論の余地はありませんでした。

もうひとつ、圧倒的な証拠を持つ偉大な奇跡があります。先週のメッセージで、ペトロが長老たちに復活について主張した個所がありました。使徒 4:10 です。「あなたがたもイスラエルの民全体も知っていただきたい。この人が良くなって、皆さんの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものです。」イエスの復活は、癒しをはるかに上回る奇跡です。しかし、使徒 4 章を注意して読んでみると、イエスが死からよみがえったというペトロの主張に反ばくしようとはしませんでした。なぜでしょう。それは、復活についての証拠に有無を言わせない説得力があるとわかっていたからです。

そこで、長老たちはどうしたのでしょうか。使徒 4:21 にはこうあります。「議員や他の者たちは、二人を更に脅してから釈放した。皆の者がこの出来事について神を賛美していたので、民衆を恐れて、どう処罰してよいか分からなかったからである。」すべての人々は、神を賛美していました。しかし、議員たちは使徒たちを脅し、彼らをどう処罰するか決めかねました。彼らが脅威を感じていたからでしょう。

この長老たちは、イエスがラザロをよみがえらせたときにこう言っています。ヨハネ 11:47-48 「11:47 そこで、祭司長たちとファリサイ派の人々は最高法院を召集して言った。『この男は多くのしるしを行っているが、どうすればよいか。 11:48 このままにしておけば、皆が彼を信じるようになる。そして、ローマ人が来て、我々の神殿も国民も滅ぼしてしまうだろう。』」

長老たちは、指導者という立場にしがみついていた。神殿がなければ、その立場もあり

ません。そこには、地位や富といった既得権益がありました。彼らはイエスが多くの奇跡やしるしを行っていることをよくわかっていました。そして、そのしるしが、イエスがメシヤであると裏付けるようなものであることも承知していました。しかし、彼らはイエスについての真理には何ら興味がありませんでした。彼らの関心事はただ、自分たちの快適な生活や社会的地位を脅かすものを排除することだけでした。

こんな長老たちを非難するのは簡単です。「私たちはどうだろう」と自問するのは、少し勇気のいることです。そう思いたくはありませんが、私たちも実は、この長老たちと大した違いはありません。私たちも、自分の快適な生活や社会的地位を守ろうとします。人間には、快適さや地位を求める心があります。そのせいで、イエスを受け入れることができない人もいれば、イエスの厳しい教えは聞かないふりをして、自分の好きなように福音をゆがめる人もいます。私たちは、社会的地位や快適さを守るために、信仰において妥協してしまっていないか、日々内省する必要があります。

初期のクリスチャンは、多くが殉教者となりました。また、教会史の伝承によると、ペトロは紀元64年にローマで逆十字につけられたといわれます。使徒たちも初期のクリスチャンも、身の安泰や地位を守ろうとはせず、イエスを大胆に宣べ伝えました。私たちも彼らの模範に倣うべきです。その従順と自己犠牲により、彼らは天に富を積むことになりました。また、彼らの従順と自己犠牲のおかげで、福音が国々に広まり、多くの人々に救いをもたらしたのです。



使徒4章に見られるパターンは、今日も続いています。イエスに逆らう人はたくさんいます。無知がそうさせる場合もあるでしょう。しかし、多くの場合は、保身のためでしょう。けれども、クリスチャンが真理のために毅然と立ち上がり、イエスの福音を大胆に宣べ伝えるところでは、永遠の価値をもつ天の宝を勝ち取っています。迫害の多いところでは、真理と偽りが際立って対照的であることがわかりやすく、多くの人々が信仰に導かれて救われるのです。

今日、ひとつ提案があります。世界中で迫害に苦しんでいるクリスチャンのためにお祈りいただきたいのです。世界のあらゆる場所でクリスチャンに対する厳しい迫害が現代もあることをご存知でしょうか。クリスチャン迫害に対する認識を高め、祈り手を動員するオープン・ドアーズという団体があります。今日、キリスト教弾圧の激しい国を覚えて、ともに祈りください。

オープン・ドアーズは、「キリスト教弾圧50ヶ国報告書」というリストを発表しています。この地図で印のついている場所が該当する国です。日本で忠実なクリスチャンとして歩むのは簡単ではありません。それほど同じかもしれません。しかし、この印のついた国では、イエスの福音を宣べ伝えたことで、投獄されたり、処刑されたりするのです。そのような場所でクリスチャンとして生きるのは、はるかに困難です。二千年前の長老たちのように、真理に脅威を感じる人は世界中にたくさんいます。そして、復活を宣べ伝え、善行に励むクリスチャンを罰しようとするのです。



この50カ国のリストに興味がある、各国からのレポートを読みたい、クリスチャン迫害関連の祈りの課題を知りたい、と思われる方は、公式サイト www.worldwatchlist.us をご覧ください(英語のみ)。今のところは、キリスト教弾圧が最も過酷だといわれる国ワースト10を紹介します。北朝鮮、イラン、アフガニスタン、サウジアラビア、ソマリア、モルディブ、イエメン、イラク、ウズベキスタン、ラオスです。これらの国々では、クリスチャンが厳しい迫害にあっており、私たちの祈りを必要としています。また、クリスチャン以外にも弾圧を受けている人々が多くいることも覚えて、その方々

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. North Korea | 6. Maldives |
| 2. Iran | 7. Yemen |
| 3. Afghanistan | 8. Iraq |
| 4. Saudi Arabia | 9. Uzbekistan |
| 5. Somalia | 10. Laos |

が守られるようにもお祈りください。

迫害を受けている人々を覚え、神の守りがあるように祈るのはよいことです。また、迫害がなくなるように祈りたいとも思います。しかし興味深いことに、迫害を受けているクリスチャンは、迫害が止むこと以上に霊の収穫が与えられるよう祈るほうが大切だと考えることが多いといいます。その良い例として、使徒たちがどのように祈ったか、使徒 4:23-31 で見てみましょう。

IV. 聖書朗読 使徒 4:23-31 (新共同訳)

4:23 さて二人は、釈放されると仲間のところへ行き、祭司長たちや長老たちの言ったことを残らず話した。 4:24 これを聞いた人たちは心を一つにし、神に向かって声をあげて言った。「主よ、あなたは天と地と海と、そして、そこにあるすべてのものを造られた方です。 4:25 あなたの僕であり、また、わたしたちの父であるダビデの口を通し、あなたは聖霊によってこうお告げになりました。『なぜ、異邦人は騒ぎ立ち、／諸国の民はむなしことを企てるのか。 4:26 地上の王たちはこぞって立ち上がり、／指導者たちは団結して、／主とそのメシアに逆らう。』 4:27 事実、この都でヘロデとポンティオ・ピラトは、異邦人やイスラエルの民と一緒にあって、あなたが油を注がれた聖なる僕イエスに逆らいました。 4:28 そして、実現するようにと御手と御心によってあらかじめ定められていたことを、すべて行ったのです。 4:29 主よ、今こそ彼らの脅しに目を留め、あなたの僕たちが、思い切って大胆に御言葉を語るができるようにしてください。 4:30 どうか、御手を伸ばし聖なる僕イエスの名によって、病気がいやされ、しるしと不思議な業が行われるようにしてください。」 4:31 祈りが終わると、一同の集まっていた場所が揺れ動き、皆、聖霊に満たされて、大胆に神の言葉を語りだした。

V. 教え

この祈りを掘り下げて学ぶ時間は今日はありませんが、これは驚くべき祈りです。どうぞ、細かいところまで学んでみてください。この祈りで、神は創造主であり主としてあがめられています。そして、それまでに起こったことが回想録のように述べられています。しかし使徒たちは、脅しや迫害が収まるようにとは祈っていません。すべて起こったことは神のご計画のとおりであったと認め、ただ神のみことばを語る大胆さを求めています。そして、イエスが主であることを奇跡が証明してくれるようにと祈っています。つまり、使徒たちは迫害が止むようにではなく、神だけが栄光をお受けになるように、そして、この迫害によって霊の収穫がもたらされるようにと祈っているのです。使徒言行録のこの時点では、まだ軽い迫害がある程度でした。しかし、しばらくすると、状況は厳しさを増していきます。それでも、彼らの祈りは常に、自分たちの身の安泰ではなく、その状況で神がどのように栄光をお受けになるかということでした。

VI. 結び

私たちはどうでしょう。苦しみに遭うとき、その苦しみが過ぎ去るようにとだけ祈っているでしょうか。そうではなく、苦しみの中で神に栄光があるようにと祈っているでしょうか。自分の身の安泰だけを求めているでしょうか。大胆にイエスの名を宣べ伝えられるように、多くの人が救われるように、と祈れているでしょうか。

今後、私たちが皆、大胆なキリストの証人となれるようにと祈ります。それには、キリストの臨在の中でもっと時を過ごす必要があります。神の栄光に目を向けた力強い祈りが必要です。そして、神の聖霊による新たな満たしが必要です。祈りましょう。

VII. 祈り

天の愛する父よ、

あなたは創造主であり、すべての主なるお方です。あなたの聖なる御名をたたえます。愛と恵みに感謝します。主権者なる主よ、私たちはしばしば、イエスに従うこと以上に、快適さを求めてしまいます。私たちのためにあなたが持つておられる完全なみこころ以上に、自分の将来計画に気を取られがちです。迫害で苦しんでいる兄弟姉妹がいることを忘れてしまいます。主よ、イエスの名によって、主が十字架上で成してくださった御業によって、私たちの罪をお赦してください。あなたとの正しい関係へと立ち返らせてください。あなたの聖霊で満たし、あなたの愛と恵みを大胆に宣べ伝えられるようにしてください。主よ、私たちの歩みにおいて、家庭で、教会で、そしてこの国であなたに栄光がありますように。イエスの尊い御名によって祈ります。アーメン。

では、さきほどのキリスト教弾圧が最も厳しい国を示したスライドに戻り、その国におられる兄弟姉妹を覚えてしばらく静まって祈りましょう。迫害が止むようにだけでなく、クリスチャンが勇気と大胆さをもって、主イエスの愛を証することができるように祈りましょう。そして、迫害の中で、神が栄光をお受けになるようにお祈りください。

では、祈りましょう。(各々静まって祈る)

アーメン。